

郵便

明治六年一月



新聞

第貳號

附錄



新貨三錢

東京横山町三丁目

太田金右衛門





郵便報知新聞第卅三號附錄 明治六年第一月

○在米富田鉄之助ヨリ外務省へ贈ラレタル書簡ノ畧。

一ヶ月計リ前ヨリ馬ノ傳染病流行ニ有之初メハ隣境  
 カナダ領ヨリ來リ取次ニ傳染當時ニ至テハ既ニ各州  
 ニ蔓延シ当市中甚敷折ハ前十日計一トシテ病馬ナラザ  
 ルナク市中馬車ノ往來殆ド絶ヘ就中海外出入ノ荷物  
 運送ニ差支商家ノ為ニ大ニ妨ゲト模様ニ有之ハ新聞  
 紙取集中致ハ間委細ハ右ニテ御承知被下度ハ右ニ  
 付而ハ我國內へ輸入ノ馬ハ篤ト御検査アリテ可然ト



奉存小尤為念右病名ヨリ手当振等当府ノ馬医「カタツ  
 ナチ」ト申者ニ打合セ同人ヨリノ知告其終ニ在中差出  
 小間万一モ右病症流行ノ事モ有之ハ、手当振等ハ  
 御布告相成「テ可然」ト奉存小右申進度如此御坐小  
 ○一千八百七十二一年十一月一日新約克府馬医「カタツ  
 ナチ」氏ヨリ富田鉄之助へ投セ「シ書翰前略  
 現今北亞米利加洲ニ於テ盛ニ流行スル馬病ヲ世人  
 多ク称シテ新病トノミ唱へテ未ダ其名ヲ配称セザレ  
 氏全ク精ク索求セザルヨリ然ル者ニテ已ニ歐洲ニ於  
 テハ此ノ如キ病近来屢々流行セシガ為メニ「インフル

ンザ、ヂステンバ、カタラル、ハ「イブル」或ハ「イバアヂミツク、  
 カタラ」或ハ「イビザヂック」ラ「ルンヂチス」等ノ病名ヲ之ニ  
 配セリ然ルニ現今本州ニ流行スル此病ノ徴候ニ因リ  
 又別紙ノ新聞ニ由リテ考フレハ則チ之ヲ「イビザヂック」  
 ラ「ルンヂチス」ト名ケテ允適ナルベシ○是マテ屢々流  
 行セシト虽氏当時本州ニ於テ流行更ニ盛ナルカ如  
 キ例ハ未ダ之アラズ大凡平均シテ毎百ノ中九十五足  
 ハ必ス此病ヲ受クベキ割ニテ之レニ感ゼガル者甚ク  
 稀ナリ一百五十頭人馬ヲ繋ゲル厩ニテ尽ク之ニ感テ  
 シ「モア」リシナリ其病ノ輕重ハ馬ニ依テ異ナレ氏必



ズ多少ノ衰弱ヲ突ヒレノ快後久シク使用レガタシ此  
 病源ハ一種ノ悪氣アリテ空氣内ニ混合シ之ガ為ニ尙  
 敗シタル氣ヲ呼吸スルヨリ生スル者ニテ專ラ喉道甚  
 ヲ渴焼スルノ苦痛アリ此病ニ感スル初メハ乾咳頻速  
 ニテ氣喉焮衝シ鼻膜鈍色ヲ帯ビ口中粘熱脉度殊ニ速  
 ナレ氏其動力甚ダ微弱ナリ其上物ヲ飲ミ込難キレハ  
 飲食スルヲ好マズ氣管ヲ僅カニ推ス時ハ必ズ咳嗽  
 ヲ生ズ外皮及ビ四足ノ端ハ平常ノ温度ヲ保テ氏全體  
 ノ衰弱甚シク僅カニ三十六時間ニ蹶キ出シ之ヲ圈外  
 ニ導ク時ハ動モスレハ覺レントスル有様アリ鼻ヨリ

黄ノル物ヲ流シ呼吸益急迫シテ其病性外貌ヨリ見レ  
 ハ唯肺臓ノ病ヨリ然ルニ似タリ其病ニ苦痛スル時  
 更ニ長短アリテ一定ノ期ナクレ氏之ニ適スル用法ヲ  
 施サズンバ十ガ八九ハ氣道ノ渴焼焮衝スルニ堪ヘズ  
 終ニ死ニ至ルヲアリ仍テ此病ヲ省シ方劑ヲ施用スル  
 方法ヲ尤ニ条列セシ

第一 適量ノ量ヲ料リ麥皮ヲ溫和シテ之ヲ飼フベシ  
 第二 燕麥ノ粉ヲ和シ煎糞シタル稀薄ノ飲物ヲ桶ニ  
 入レ之ヲ掛置テ佳トス

第三 之ヲ飼フニ強テ食ハシムルヲ要セズ唯馬ノ



好ム處ニ任スベシ

但初ニハ之ヲ嫌フ有リ他ノ飲物ヲ與ヘザル  
ガ為ニ終ニ心ス之ヲ好ムテ飲ムベシ

第四 既中清淨沮滯ナリ空氣更ニ流通スルヲ要ス

第五 成丈既園ノ廣キ處ニ之ヲ繋グベシ

第六 既園ヲ清淨ニ洗掃シテアニモ子ヤ氣ノ滞在ナキ  
ヲ注思スベシ

第七 毎日既中ニコロライトコッライムニロリック、ア  
シドノ如キ傳染ヲ避クル藥品ヲ灌撒スベシ

第八 稍食物ヲ欲シ脚ヲ健康ヲ復スルマデハ適宜ニ

温ナラシメ少シモ運動セシムルヲ勿シ

第九 健康逐次ニ恢復スルニ隨ツテ距離ヲ増シ之ヲ  
ヲシテ日々兩三小時間運動セシムルヲ要ス

第十 我療法ハ癸病ノ折馬ノ兩耳間ヨリ氣管ノ第二  
輪或ハ第三輪ノ辺迄一種ノ刺擊膏ヲ塗若氣管ノ内

部ニテ何ニカ粘着スル響キアルヲ覺エル時ハ之  
ヲ塗り擴ゲ其病ノ廣ガリニ丈ク一面ニ塗膏シ其刺

撃カノ後ルニ憂ナキ様ニキヲ尽スミ

〔スピリッツ、オファ、テレビンタ〕 六オーニス

〔リクル、アンモンホルト〕 四ドラキエム



〔バルウエリズ、ト、カブシカ〕

三ドラチエム

此三品ヲ壘中ニ入レ置キ供用セントスル時ハ之ヲ  
揺リ動カシテ密ニ和スルヲ要ス

第十一 此藥ハ日々兩度用エベシ

但其功驗ハ刺撃カナル故ニ之ヲ塗ルヨリ凡十カ  
時間ハ馬少シ苦シゲナル様子ヲ頭ハシテ動モス  
レバ荒立チ人ニ害ヲ為スノ恐レアレハ預メ之ニ  
注意シ之ヲ圈内ニ堅ク繋ギヲクベシ

第十二 病ニ感じテ二三日間少シモ食ヲ取ラズニ續  
ク時ハ善ク用意シタル飲物ヲ口中ニ澱ギ入ル、

ヲ施シテモ害ナシ然レハ成丈飲物ヲ與ハザルヲ  
緊要ナリトス

第十三 左ノ丸藥ヲ用フベシ

〔バルウエリド、アンモン、カルボネート〕 二オンス

〔全 カンホル〕 一オンス

〔全 ジンジベリス〕 一オンス

〔全 セムリニー〕 四オンス

此等ヲ雜ゼ合セ水ニ和シ十粒ヲ分チ朝夕一粒  
與フベシ

第十四 逐次ニ恢復シ自然ニ食ヲ求メハ之ヲ運動



セザルハ旅ハガルナレハ此丸藥ヲ廢シ丸ノ合方ノ  
散藥ヲ十二服ニ分チ一服ツ、毎夜飲物ニ和シテ與  
フベシ

〔パルウエリズドニトラト、ヲスホツタス〕

三オンス

〔全 ギャフル、フロウルス〕

二オンス

〔全 ジンジベリス〕

一オンス

第十五 病殊ニ重キ馬ニハ宜敷鼻膜ヲ温メテ以テ黄ナ  
ル鼻涕ヲ流シレメザル為ニス又並劑ヲ施スヲ要ス  
但鋸屑ヲ桶ニ入レ之ニ熱キ湯ヲ澱ギ其湯氣ノ中  
ニ馬鼻ヲ温莖スベシ

余此ノ如キ注意方劑ヲ施用シテ此府中ノ病馬七百餘  
匹ヲ看シニ冬ク之ヲ治療シ得タリシハ實ニ天幸ノ一  
トモ謂フベキ乎然レモ未ダ此病余國ニ於テ流行盛ナ  
レハ則チ不日ニ貴國ニモ亦之ガ及達傳添スルヲアラ  
ンモ甚ダ測リガタシ故ニ貴國ニ於テ此病性春復ノ間  
ニ行ハル、ナラハ宜シク青草ヲ以テ馬ヲ飼フベシ若  
枯草ヲ之ニ與ヘントナラハ須ク其量ヲ減ジテ善ク之  
ヲ揺リ動シテ水ヲ周ク之ニフリカケ之ヲ與ベシ其他  
ハ前条ノ方法ヲ施シテ之ヲ治療スベシ若貴國ニ於テ  
病馬ヲ看スルニ余ノ方劑ヲ御採用アリテ病馬ヲ治療



シタマハバ余ニ於テモ満足スル必ナリ林檎実ノ薄片  
ヲ手ズカラ子フレハ之ガ為大ニ食欲ヲ促ス右ノ如ク  
尋常ニ簡易ノ方法ニテ大ニ恢復ヲ進ムルアリ宜ク  
注意スベシ右申進度如シ御坐也

○即今郵便の線路粗全國小且り通信往復一便利開け  
たりと虽も里數ニ隨ひ賃錢の差ひ有之未だ充全の便  
利得ざるを以て西洋各國ノ法如く國內の書状を  
里數乃速近小拘むが喻バ東京より横濱小至る各状も  
九州より北海道小達する書状も皆同一の賃錢と扱む  
る此法と建且其賃錢乃稱呼を廢して郵便税と被成又

右乃如く速近同一ノ郵便税を扱ふ法と亦是右遠方の  
書状を甚ど少き税を扱ふ近方乃各状へ多き税を扱  
る割合となる故近方乃分へ皆飛脚屋の手小落ち政府  
の唯速方のと城邊送もる等とされり故に親族朋友等  
の往来小幸便と屬一或る特一一個の使を出し此類小  
して別ニ賃錢を受取各状の外ハ何官何屬何業の者  
も亦も私ニ賃錢を受取り郵便切手無之書状と取扱ふ  
者ハ嚴罰小處べき法とも被建已正院へ伺中との  
由也

○或人驛通官員ヲ詰テ曰ク此節郵便賃錢ノ稱呼ヲ廢



シテ郵便税ヲ興シ國內ノ信書ハ里數ニ拍ハラズ皆等  
 一ノ税ヲ収ムル法ヲ建ルノ議アリト聞クコハ如何ナ  
 ル法ゾヤ凡テ事ハ其勞逸ニ隨テ其報ヲ異ニシ其勞愈  
 多ケレバ其報益多キハ普通ノ定理ナリ獨郵便ノ遠送  
 耳遠近ヲ不問之ヲ同一視ス或ハ之ヲ遠キニ達スルモ  
 近キト勞逸異ナラザルカ答テ曰子ハ誠ニ井蛙ナリ唯  
 其一理ヲ知レルノ之固ヨリ郵便ヲ遠キニ達スル童ニ  
 其勞ノ多キノミナラズ賤ノ費ルモ亦多シ勞且費多ク  
 シテ其報其償ヲ厚ヒザルハ別ニ公理ノアル故ナリ今  
 其一端ヲ喻テ弁ビテ國內ノ人民相語テ曰ク我輩ハ皆

同誼ノ社友ナリ益此社友ノ交ヲ厚フシ此社友ノ國ヲ  
 富強ニセンニハ東西南北能ク其物情ヲ響應セシメ千  
 里比鄰トラレハハレ然レ氏躬自ラ相往來シ相會合ス  
 ル交レテ成ルベキ事ニアラズ故ニ四方へ郵便ヲ通ジ  
 相報告スルニ信書或ハ新聞紙ヲ以テスミシト然レ氏  
 又遠キニ報知ヲナサントスルニ多ク錢ヲ費サハ勢ヒ  
 厭フノ情起リテ自然疎調ノ弊ヲ生ゼン若此弊ヲ生ノ  
 ルハ千里比隣ノ實ヲ失ヒ隨テ友誼ヲ欠クニ至ラ  
 友誼既ニ欠クルニ及バ、何ヲ以テ此國ヲ維スルヲ得  
 ン然ラハ遠近等一ノ法ヲ建テ少シク近キニ失フモ大

長中竹月 高士三才集



ニ遠キニ償フテ能ク往復ノ道ヲ疏シ各自ノ本義ヲ達  
 スミレト古來吾國民人ノ如キハ封縣歷制ノ改ニ慣レ  
 シヨリ未ダ此義ヲ知ラズト雖モ政府ハ眼ヲ茲ニ注ギ  
 既ニ全國ニ郵便ヲ通ジ今又等一ノ稅ヲ興スハ蓋シ此  
 理ニ休スルナリ唯此公理ニ就クノミナラス事務ニ於  
 テモ為サザルベカラズ政府ノ務ハ簡明ニシテ毫モ人  
 ノ疑ハガルヲ要ス若シ從前ノ法ノ如ク里數ニ就テ賃  
 錢ヲ収メバ總テ各地ノ郵便士官遍ク國內ノ地名ヲ諳  
 ジ又其里程ヲ詳悉セザレハ變レテ正賃錢ヲ収メ難ク  
 亦郵便ヲ出スノ人モ之ヲ士官ニ問ハザレハ其正錢ヲ

排フ帳ハズ公私ノ煩難謂フベカラス到底疑似ヲ免レ  
 非レ今若シ之ヲ等一ニシテ煩難頓ニ除クベシ全ク疑  
 似ノ原ヲ絶セシ實ニ簡明單一ニシテ至良ノ法ト謂ハ  
 ガルベケンヤ西人曰ク理アレハ難易ヲ均フスベシ郵  
 便以テ之ヲ徵スベシト請フ此理ヲ了シ得テ井蛙ノ見  
 ヲ脱マラレヨト此問答ヲ諸君ニ報知ス

報知新聞第百三十三號附錄



幸矢新昌  
全十三年  
丙寅

ノ



